

頭取メッセージ

平素は愛知銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

我が国の経済情勢は、企業収益の改善は緩やかになったものの設備投資と個人消費がともに底堅く推移し、景気回復基調を維持しています。一方、人口減少や高齢化社会の進行等の課題への対処を迫られるなかで、地方創生への取組など、地域活性化に向けて地域金融機関が果たすべき役割への期待は一段と強まりつつあります。

こうした経営環境の中で、2016年4月からスタートさせた「第10次中期経営計画」では、当行が10年後に目指す姿として「地元調達・地元運用に徹し、地域社会の発展とお客さまの成長に貢献する愛知のリーディングバンク」を掲げ、10年後も地元中心の経営に特化している「当行の企業像」を明確にいたしております。

中期経営計画の3年間で目指す大きな目標は3つあります。1つ目は「収益力増強のための営業体制強化」です。具体的には、「新営業体制」への移行、「本部組織のスリム化」を実施したことにより営業店人員を増強し、営業力の強化を図っています。2つ目は、「リスク・リターンのバランスを踏まえた堅実経営」です。当行が長年にわたり培ってまいりました堅実経営を遵守していくなかで、リスク・リターンとのバランスを踏まえて果敢にお客さまへの融資や支援に取り組んでいます。3つ目は、「金融サービスを通じたメイン取引先の拡大」です。法人・個人ともにメイン取引先の増加を目指した活動を強化しています。地域のシェアを高め、10年後の姿に掲げる「愛知のリーディングバンク」の礎を築いていきます。

以上の3つの目標を達成するために、「経営資源の選択と集中」、「挑戦、スピードアップ」、「地域社会への貢献」の3点を戦略構築の基本方針として掲げています。

1つ目の「経営資源の選択と集中」につきましては、「ヒト」、「モノ」、「カネ」という経営資源を選択し、個別戦略に集中させています。2つ目の「挑戦、スピードアップ」につきましては、あらゆる業務において迅速な対応が可能となるように、組織の見直し、及び業務効率化などを積極的に進めています。

最後の「地域社会への貢献」につきましては、地方創生に向けた地域の成長企業支援、ソリューション営業による取引関係の強化、愛知銀行グループ全体の金融総合サービスの強化などにより、地域社会の活性化に貢献していきます。この基本方針の下で、収益力の強化、経営基盤整備のための個別施策を展開しています。

重点施策として掲げた「中小企業、特にミドルリスク先・年商の少ない零細企業向け貸

出の増強」については、第10次中期経営計画2年目（昨年度）も、目標を大きく上回る成果をあげております。最終年度を迎えた今年度も引き続き重点戦略として、前年を上回る成果に繋がるように真摯に取り組んでまいります。



取締役頭取 矢澤 勝幸

経営計画

第10次中期経営計画 (2016年4月1日～2019年3月31日)

地域に根ざし、地域社会の発展に
貢献していきます

10年後に
目指す姿

地元調達・地元運用に徹し、
地域社会の発展とお客さまの成長に
貢献する愛知のリーディングバンク

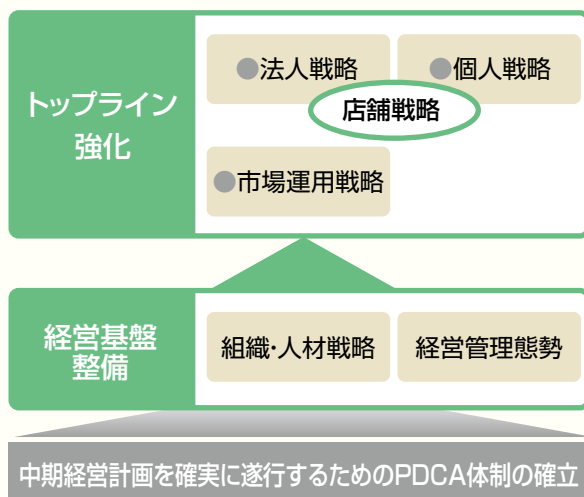
大目的

- 収益力増強のための営業体制強化
- リスク・リターンバランスを踏まえた堅実経営
- 金融サービスを通じたメイン取引先の拡大

基本方針

- 経営資源の選択と集中
- 挑戦、スピードアップ
- 地域社会への貢献

第10次中計基本戦略体系



第10次中期経営計画で目指す経営指標 (2018年度目標)

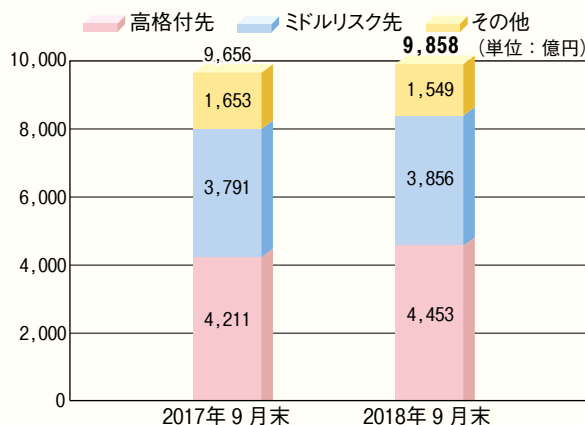
コア業務純益	経常利益	当期純利益
65億円	62億円	43億円

- ・当初目標から17億円下方修正
- ・当初目標から13億円下方修正
- ・当初目標から7億円下方修正

第10次中期経営計画の成果

第10次中期経営計画では、中小企業（特にミドルリスク先、年商の少ない零細企業）向け貸出の増強及び、メイン化を中心施策として掲げております。2018年9月期の実績（年間平均残高）は下記のとおりです。

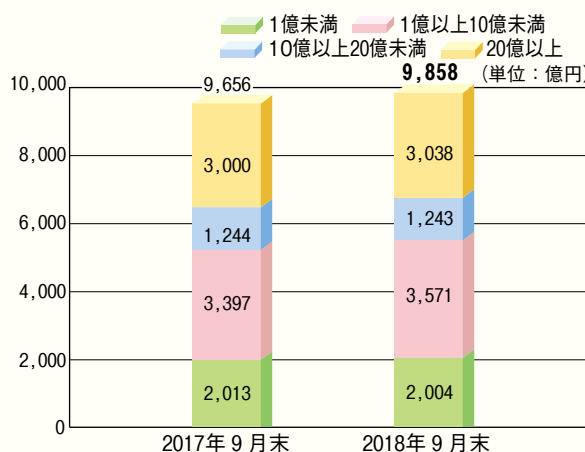
格付別中小企業向け貸出金



	高格付先	ミドルリスク先	その他	全体
対前年比	241	64	▲103	202

成果 ミドルリスク先で64億円の増加。

年商別中小企業向け貸出金



	1億未満	1億以上10億未満	10億以上20億未満	20億以上	全体
対前年比	▲9	174	▲1	37	202

成果 年商20億円未満の先で164億円の増加。

※計数は、単位未満を切り捨てて表示しております。